

第6回鳥栖市総合教育会議 議事録

会 議 名	第6回鳥栖市総合教育会議
日 時	平成29年5月10日(水) 開会 午後 1時10分 閉会 午後 2時40分
会 場	市役所3階第1委員会室
公 開 ・ 非 公 開	公開
出 席 者	構成員：橋本市長、天野教育長、古澤教育委員、吉原教育委員、 戸田教育委員、副田教育委員 事務局：白水教育次長、江寄教育総務課長、原教育総務課総務係長 説明員：平川学校教育課長、有馬学校教育課学校教育係長、 築地学校教育課主査
傍 聴	1人
協 議 事 項	◆中学校給食について
発 言 者	内 容
江寄教育総務課長	皆さま、改めましてこんにちは。それでは定刻になりましたので、只今より第6回鳥栖市総合教育会議の方を始めさせていただきます。本日は「中学校給食について」というようなテーマでご議論いただくことになっております。進行につきましては、橋本市長にお願いすることになっておりますので、よろしくお願いいたします。
橋本市長	はい、皆さんこんにちは。今日は総合教育会議ということでよろしくお願いいたします。今日は教育委員会教育長の方から中学校給食についてぜひ議論をしたいということでございましたので、皆さんの忌憚のない意見をお聞かせいただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。 まず最初は事務局が説明します？はい、よろしくお願いいたします。
平川学校教育課長	(資料に基づき説明)
橋本市長	はい、ありがとうございます。じゃあ教育長からまず口火を切っていただければと。
天野教育長	この完全給食についての取組については、今課長が話したような流れがあるんですけども、心身共に成長著しい中学生にとって健全な食生活という健康な心身を育むための欠かせないものであるということですね。やっぱり選択制の給食から、ちょっと時期は遅れたものですね、この際見直すべきときが来たのではないかなあということですね。非常にいろんな課題点もあります。財源面もあります。いろんな問題もあるんですけど、前回いろんなところで話を聞く中で、まだ緊急性や必要性がないという、説得力も少ない

	<p>んじゃないかなというふうなこともいろいろあるんですけども、やはり貧困家庭じゃありませんけど、子どもたちのことを考えてやっぱりきちとした給食を、完全給食を提供する時に来てるんじゃないかなということで、今回市長さんの方にもこの中学校給食について話をお願いしたという経緯があります。</p>
橋本市長	<p>一応今日中学校の給食をテーマにということでの背景説明等をしていただきましたけれども、あとは今日はフリーに御意見を賜ればと。</p> <p>お金の話を先にしてしまうとそこで止まってしまいますので、これは最後にということでございまして、いわゆる食事の、要するに給食のあり方ということと、今あの特に国においては教育の完全無償化をしようというような動きもございまして、その中でそこら辺の情報は何かお持ちですか。完全無償化をしようとかっていう、国がやっていますが、そんな中で給食はどういう位置付けになってるかということとか、もし情報がありましたらお願いします。</p>
天野教育長	<p>完全無償化ということで国の方がですね、今度は憲法を変えるところを含めた上でそういったことを話をしているような状況ですけども、高校まで無償化しようというような流れが来ているというようなこともあるんですけど、それともう1つが小学校給食・中学校給食を無償化しようという流れが来ているのは事実だというふうに思っています。一番新しいので荒尾でしたかね。荒尾市が小学校を今年から、今年からですよ、全部無償化するという流れがありました。それから県内でも幾らかそういう流れもあるということで、そこが非常に、義務教育の無償化とその給食の無償化が果たして合致するのかなということもあるんですけども、そういった意味で無償化ということに対しての流れって言いますか。もっともご存知のように上峰町の方がですね、すると言って止んでしまったという経緯もあるようです。あるようですけども、そういった流れが佐賀県の方でも出てくるんじゃないかなというふうに思っています。以上です。</p>
橋本市長	<p>もうあとは自由討議ということで、それぞれお考えを吉原議員から順にいきます。</p>
吉原教育委員	<p>はい、中学校の完全給食ということで、ま、完全給食についてはですね、反対することも自分としてはないかなと思っております。</p> <p>ただそのお金の徴収ですがね、その小学校あたりがちょっと御苦労された集金体制っちゃうか、そういうのがちゃんと確立できればもう完全給食にされてもですね、いいのかなと今のところ思っております。</p>

副田教育委員	<p>はい、私は17年前に岡山からこちらの佐賀県に越して参りました。そこでその子どもたちを育てる中で中学校は全部給食ではなくてお弁当だったんですね。ですから幼稚園もお弁当でしたし、小学校だけが給食で、あと中学高校とずっとお弁当づくりをしてました。その時にどうしても偏ってしまうんです。子どものリクエストがありまして、嫌いなものは平気で残して帰ってきます。</p> <p>で、こちらにもうすぐ中学校3年生になる一番下の娘だけを連れて佐賀に越してきたんですが、その時に佐賀市内の城東中学校という中学校が給食でして、好き嫌いがなくなりました。ですからやっぱり皆と一緒に食べて同じものを食べるというのはそういった効果があるなど。お弁当と違って良いところはそこだなと実際に感じました。以上です。</p>
戸田教育委員	<p>はい、私も基本的には完全給食、望ましいなと思います。先程からも出ておりますとおり、食育の観点もありますし、貧困家庭の問題もありますし、一昔前に比べてなかなかお弁当がつかれない共働きの家庭も増えておりますので、給食という形で合わせるのがいいんじゃないかなと思ってます。</p> <p>しかしながら、幾つか考えなきゃいけないことがあるなと思っておりますのは、このアンケートを見ると、全ての割合で今の選択制弁当給食よりも完全給食の方が良いって言ってる訳ではないと思うんで、制度移行に当たっては完全給食のメリットをきちんと説明する必要がある。両方の、何て言うんですかね、完全給食の利点等をきちんと説明する必要があるんだろうなと。それが保護者に対してと子どもたちに対して、その辺の整理をする必要があるんじゃないかなと思います。</p> <p>もう1つは、今度完全給食になって、恐らくこの子どもたちですね、反対している割合の多いのは。保護者よりも、中学生あるいは中学生になるであろう小学生と思うんですけども、彼ら彼女達に対しては、1つは好き嫌い。お母ちゃん、お母ちゃんじゃないな。母親がつくるお弁当だと好きな物でもらえるけど、給食だと嫌いな物を食べなきゃいけないというのはあると思うんですけど、もう1つは、おいしい給食である必要。だから、ある程度質を高めてあげるその努力をしなければいけないんじゃないかなと。それに関わるのがどうやって業者を選定、何て言うんですかね、業者の競争性というか、企業側にも努力をしてもらったり、一緒に、あるいはその努力をするインセンティブを持たせるようなシステムに工夫しなきゃいけないんじゃないかなと思っております。それは具体的にどういうふうにすればいいのかっていう、あまりあれはないんですけ</p>

	<p>ども。</p> <p>ということですみません、話を戻しますと、その選択弁当制から完全給食制に移行するに当たって、両制度のメリットデメリットの整理をした上で保護者なり子どもたちに提示をすることが大事じゃないかなというふうに思います。すみません。とりあえず以上です。</p>
橋本市長	古澤委員、どうぞ。
古澤教育委員	<p>鳥栖市も学校給食を始めて恐らく 55 年、60 年近く経過しているのかなという様に思います。そういう中で、当初の目標というのが例えば栄養の補給とかいうことで始まったのが、時代は経過して、現在は食育とか新たな目的も付加されてきているのかなという様に思いますし、皆さん御存じのとおり、子どもが置かれている難しい環境の中で朝御飯を食べてきてない。ましてや、給食を選択制でなってきたと食べれない子どもさんもいるということで、食育の他にプラスアルファ、また時代は当初に戻って、栄養の補給みたいな形に戻ってきたりもしているのかなという様に思っています。</p> <p>ですから子どもの意見も大事だけれども、保護者の意見を参考にしながら、やはり子どもたちには、生まれてきたからには皆さん等しくいろんな部分で受ける権利があると思ってるので、お家が、生まれたところが貧困だからということで、そういった本人に不利益になるようなことがあってはいけないと思うので、極力そこら辺の手だてができるのであれば、市長さんおっしゃったように、もうつまるところはやるやらないというのは経費どれだけかかるかってこと。しかし、投資してもそれに見合うだけのすぐには返ってこなくても、子どもたちが立派に育つということが大きな財産に社会にとってはなるんじゃないかなという様に思っていますので、極力完全実施に向けていろんな知恵を出して取り組んでいけたらなという様に思っています。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。幾つかいろいろ御指摘を頂戴してありがとうございます。</p> <p>まず、今古澤さんから御指摘があった、時代的な給食の役割は何なんだと。やはり給食は戦後の栄養失調をどうカバーするかということで始まった訳で、多分戸田先生はご経験ないでしょうけど、私の小学校の 3 年生までは脱脂粉乳を飲んでおりまして、4 年生位に市酪といいまして鳥栖市は酪農を推奨して乳業を始めて、牛乳給食が始まって、牛乳とは何でこんなにおいしいんだという思いをした世代でもありますので、その意味ではやっぱり栄養補給、最低限の。特に貧困家庭とかで一番問題となっているのは、幼少期の基本的な</p>

栄養摂取ができていないことによって、脳も含め身体的な発育の基礎ができていないということで、結果それが将来まで尾を引いていくということをどうするかということが指摘されていますので、そういう意味では、やっぱりまた改めて豊かな日本社会における給食の役割というのはまた別にあるのかなという感じがいたします。ということでまず1つ。

それからあとおいしい給食という戸田先生から御指摘があったんですけど、私はおいしくなり過ぎてんじゃないかという気もしていて。やっぱりまずい飯と一緒に食う練習もいるよって。で、給食はまずいけどお母さんのつくった御飯が一番おいしいというのがあってもいいんじゃないかなという気がしておりますけど、まあまあそれはあの。

ただイギリスの事例からいうと、有名シェフがレシピをつくって給食を食べさせたところ、成績が上がったと。要するにおいしい食事がその子どもたちのやる気を喚起するというか、やっぱりお腹満ちて初めて勉強にも取り組めると。お腹が満たせないまま勉強だけせろという話にはならないということでもありますので、やはり基本は幼少期の本当にベーシックな栄養摂取をどうフォローアップしてあげるかということがベースにあるのかなという気がしております。

あと選択制弁当方式というのが平成20年からやられておまして、約10年弱でございますので、その意味では選択制弁当方式というのがどうだったのかという評価はですね、やっぱり一定どこかでやってそれを踏まえてどうするのかということがあろうかと思えます。ここの部屋には選択制弁当方式の経験者いないですよ。いないですよ。ですから選択制弁当方式の経験者に話を聞くのが一番いいと思うんですけども、どうだったんだろうというのはあるのかなというふうに思っております。

例えばその、事務局で把握しているかどうかわかりませんが、栄養士から見たその栄養摂取の状況というか、あるいは保健師さんから見た子どもたちの栄養摂取の状況と課題といったようなもの、何かこれは御指摘としてあるんでしょうか。

ケースワーカーさんとかの会議に出ると、とにかく小学校まで生き延びてくれよと、給食始まるころまで御飯ちゃんと食べて生きてくれよという思いを持つ子が何人かおります。正直命の心配している子も何人かおります。だからある意味、小学校までたどり着いてくれれば、給食があるので少なくとも1食は食べられると。ただ問題は長期休暇に入るとげっそり痩せて出てくるということで、そ

	<p>の意味では学校は休みなしのほうがいいんじゃないかという話もあるぐらいに厳しい状況に置かれてる子もいます。ケースワーカー会議とかで何うとやはり、虐待の最たるものはやっぱり御飯を食べさせない。やっぱりかなりの比率で鳥栖市内の小中学生も1日1食の子どもが多いです、正直。だからここを、ただその何と言うんですかね。児童の養護施設に行った子どもの話として、養護施設、児童相談所とかって行った子、あそこすごいよねって。1日3回も御飯が出てきてね、専用のお布団もあるよって。もう一回行きたいっていうような話が出てくるようなところで生活してる子も結構いると思わなければいけない。それも100人単位でいると思わなければいけないので、そこら辺の、そこは確か今所得によつての給食費の無償化というのはもう実際やってますので、給食さえ食べればですね、1日1食は食べられる。ただ学校がある時だけということではありますけれども、そういう子もいるということ。本当にだから今、古澤さんとか御指摘があったように二極分化が非常にはっきり出てきておりましたという、その部分のフォローを重点に考えれば、まだ少しは手の打ちようがあるのかなっていう気もしております。</p> <p>ただ全体でやろうとするものすごいお金のパワーがいますのでありますけれども、まずは子どもの貧困のところの栄養補給をどうフォローアップできるかということが1つと、その延長の中でどうするのかという、なんか幾つかのステップがあるんだろうなというふうに思っておりますけれども。私どもばかり言ってもしょうがないんですが、いかがでしょうか。はい。</p>
天野教育長	<p>今、貧困といいますか、準要保護家庭等へのこういった給食等のちゃんと配慮があると、補助があるというようなことについては、前おりました課長の方が、意外とその準要保護家庭が選択制の給食を頼んでいないケースが多いというようなことがあって、調査をしたというか調べてもらったりしたケースがあったんですけど。築地さん、その辺ちょっと資料分かりますかね。</p>
築地学校教育課 主査	<p>準要保護に関してはちょっとないんですけど。</p>
天野教育長	<p>意外とですね、徹底してないっていうか。準要保護の家庭は手を挙げれば必ず、それを頼めばちゃんとやりますよって。もちろん頼まなかったら補助はないからですね。しかしそれなのになかなか受けてない子どもがいるという。</p>
築地学校教育課 主査	<p>一理もしあるとするならば、アレルギー対応をちょっと中学校はしてませんので、もしかしたらアレルギーの子がいてどうしても食</p>

	<p>べたたくても食べれないっていう子と、やっぱりどうしても不登校の子もちょっと、準要保護に限らずですけども、ちょっとやっぱり多いので、どうしてもそのまあ、要保護世帯もなんですけど、はい、0円で上がってくる資料もあります。一応そんなところですかね。</p>
橋本市長	<p>あとはお金の面から言って大変申し訳ないんですけど、選択制弁当方式ってある意味すごく不公平なんですよ。要するにお弁当を自宅から持ってきている方に一切補助はいてないんですね。選択制弁当方式を選んでも子は少なくとも食材費だけいただいていて、こっちの工場とか工場回していくための人件費とか全部公費で負担してますので、弁当を自分の家から持ってくる子は全部自前なんです、労力も含めて。</p> <p>というのがあって、その意味ではある意味で税の不均衡というかですね、使い道としてはちょっと偏ったやり方ではあるんですね。だから半分の生徒さんには公費が結構潤沢に、潤沢には言えませんが、一定補助がされていて、半分の自宅から持ってくる子には一切支援はしてないよということでもありますので。だからその不公平はずっと抱えつつ走ってるんですね。だからなかなかこれは外部からの御指摘は、そういう御指摘はないのでそのまま経過しておりますが、厳密に言うとそういう不公平はあるというところですね。はい、どうぞ。</p>
古澤教育委員	<p>その話は時々出て、意識の高い保護者の方は、こういう片や公費を投入して、片や個人が負担してるじゃないかという風に言われた意見もあったようにも思うんですけど。そういったことがあることを分かってても、いや、自分のところには、子どもがそれがいいんじゃないけど、子どものある程度好きそうな部分で栄養のあるような部分を愛情の表現の1つとして、作って持たせてあげたいという風な思いも一定あるのかなという様には思うところです。どちらがどうかというと、確かにそのところだけ見ると不公平感はどうしてもあるだろうと思いますけれども。</p> <p>それと1点、さっきの御説明の中ですぐにちょっと確認しようかなと思ったんですけど、要保護・準要保護の家庭の方で、一部アレルギーを抱えてあったり、不登校気味の子どもさんが給食を受けてないケースもあるんじゃないかなという様な言い方でしたけど、その中で一番大事になってくるのはやはり、学校と子どもや家庭、こういったので受けられる資格があるんだからどうですかっていうのをしっかりとボール投げて、分かった上でうちはこうだから結構ですということを受けてないのか。そこら辺は責めるつもりはないですけど、そこまでしてもらおうと幾らかでも拾われる、救われる</p>

	<p>子どもさんが増えてくるんじゃないかなという様にチラッと感じました。</p>
<p>築地学校教育課 主査</p>	<p>周知に関してなんですけども、はい、ちょっとやっぱり周知不足ってところもちょっとありましたので、就学時健診時なおかつ入学時にですね、はい、全員にお渡しはするようにはしております。そこで見てる見てないをちょっとと言われるとあれかもしれないんですけども、はい。</p> <p>そこできなり今年に限ってかもしれないですけども、知らなかった、ちょっと去年すればよかったけども今年からでもできますかって形で、はい、申請が上がってきたケースもありました。以上です。</p>
<p>古澤教育委員</p>	<p>ちょっと対談のようになってしまいますけど、どうしてもそういう御家庭は日々の生活が大変で、学校からのそういうあれになかなかきちんと目を通して投げ返すっていう部分が少ない部分があるとかなど。それこそあのセンターなんかでも大変な思いをされてると思うんですけど、そこをもう一步踏み込んでしていただくと、うわ、知らなかった、教えてもらって助かったということも多分あるだろうというふうに思いますので、これからまた知恵を出しながらやっていって頂けたらありがたく思います。今日のお昼はおいしゅうございました。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>ありがとうございます。はい、どうぞ。</p>
<p>天野教育長</p>	<p>先程の話のつながりにもなるんですけども、結局今学校教育課としては、その中学校の選択制の給食の食数を増やそうということで一生懸命昨年から取り組んでいる訳ですね。例えば、前までは補食のことについても統一してなかったの、おにぎりば持ってきてもいいよとかそういうふうなことをきちっと伝えるとかですね。いろんな面で努力を重ねて、結局今ですね、ちょっと話を聞きましたら、4月について今年は、ちょっとうちの三角栄養士のほうに聞きましたら、ここに資料は平成29年度はないんですけど、聞きましたら952名が申し込んだと、4月はですね。結局20名、子どもたちの数は28年から29年は若干減ってますけど、60名位減ってますけど、増えてるということになる。5月は958名位というような話も聞きましたけども、増えてるというふうなことでですね。実際選択制弁当給食の申し込みを増やしてっていうことでやってはいる状況なんですね。</p> <p>こうやってどんどん増えていくと、食数も増えていくし将来的に中学校の生徒の数も増えていく状況の中で、やっぱりこうどうしてもその限界が、今日米クックさんの方の食数も限界が見えてくるし。そうやって前回問題になったのが、じゃあ、今まで先生方も一</p>

	<p>緒に頼んでいた給食を、もし千越して非常にマックスの状態になれば、先生方についてはちょっと遠慮してもらおうかという話も出てきた状況ということも、今まではなかったことなんですよ。</p> <p>しかし、これからそういったことも含めた時に、さっきも言ったように、少しずつ考える時が近づいてきてるといいますが、そういうことも1つの大きなポイントになってきてるということで、それなりに一生懸命努力はしてもらってます、本当に。今言った準要保護にしても対応にしてもですね。そういうことです。以上です。</p>
古澤教育委員	<p>はい。戸田委員がさっきおっしゃった業者さんのインセンティブの関係ですけど、例えば日米クックさんなんかは、これは単年受注ですかね、業務委託は。何か1年だけっていう様な感じで聞いたので。</p> <p>そうなってくると、例えば入札の段階で何業者ぐらいが入札に参加されて、要するにどれだけの受けられるだけの業者さんがいるかどうか。それと、そういう中で競っていただいた上で、どういう、これを受けたらこういう部分がポイントがあるからとかいう様なもっと頑張ろうかなという様な思いをプラスできるかというのを。なかなか難しい部分があるんでしょうけど。それと例えば自分のところででも、幾らかでも施設を、安全な食事ということで衛生面に配慮して、幾らかどんなかするにしても、なかなか企業としては、単年であれば設備投資なんかも難しい部分があるんじゃないかなという様に思ってるんですね。</p> <p>ですからそこら辺がちょっとこう、それを単年を複数に延ばすのがいいのかどうかは分かりませんが、単年というのはなかなか難しいのかなという様に思っているところです。</p>
原教育総務課 総務係長	<p>失礼します。先程橋本市長の方から選択制弁当方式導入の経験者はということ言われた際に言いそびれてしまったんですけども、私が平成15年当時教育委員会におりまして、給食問題検討委員会の設置あたりからちょうど契約締結あたり、日米クックさんとの契約締結あたりまで担当したことがございます。</p> <p>先程古澤委員さんの方からありました受け手の選択ですね、入札を行いましたけれども、その前にはやはり公募をいたしております。受けていただける業者さんおられませんかということで、県内だけではなく、近隣の市町村にあるそういう学校給食の提供をしていただけるような企業の方にお声掛けまでさせていただいて、現場説明の方をですね、させていただいて、今の日米クックさんの方と契約をいたしておるところです。現場説明をさせていただいた際には、正確な数字はちょっと記憶しておりませんが、真剣に考</p>

	<p>えていただいている業者さんも数社ございました。今は日米クックさんの方が受けていただいているわけですが、当初は別の業者さんが落札をされました。非常に安い単価で落札をされたんですが、衛生施設の衛生基準あたりをしてみますとどうも難しいのではないかなというようにございまして、そちらの最初に落札された業者さんとの契約を一旦解除をさせていただいて、それからもう一度、施設設備で衛生基準をクリアできるような業者さんをとということで、日米クックさんのほうに今契約をさせていただいているところです。</p> <p>当初の契約は6年契約でしておったんですけれども、それが期間満了になったこと、そしてそれでも給食は続けていかななくてはならないという部分がありましたので、それ以降については単年度契約で、毎年契約を更新をしてくているような状況というふうになっております。以上ちょっと簡単ですけども、補足して説明をさせていただきます。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。ちょっと契約の段階では様々なやりとりが起こって、すんなりとは決まらなかったという状況があります。</p> <p>あともう1つ、私も食品製造業をずっとやってきておりますので、やっぱり今回この議題が出てきたのもですね、要するに今の工場のキャパ、およそ1,300食というふうに認識をしております。食品製造で一番怖いのはキャパオーバーなんです。要するに、やっぱり受け過ぎてしまうと、やっぱり1回のロットでつくれるので2回にロットを分けてしまうと。で、1回目のロットと2回目のロットで時間差が出てきますので、どうしても腐敗というトラブルの原因になってきかねない。あるいは、要するにキャパの同じ一釜に熱を加えるでも、適正量で熱を加えれば全部火が入るのが、少し多めにやってしまった時に熱が入り切れなくて、それで腐敗が進むとかですね、様々なトラブルの原因になります。これはもう基本キャパオーバーです。</p> <p>ですからその時に、今1,300という数字が目の前に見え始めてきたので、今のうちにこういった議論をさせていただいて、今後この選択制弁当方式か、あるいは小学校でやっている、缶でお届けして子どもたちが分ける給食方式なのか、だから弁当方式を続けた全員弁当給食方式なのかという、そっちどうするのっていう議論も出てくるね。</p> <p>で、今まであった中では、中学校は子どもたち、授業が結構混みあってますので、忙しいので、完全給食化しても弁当方式で完全給</p>

	<p>食化すべきじゃないかと議論が。あるいはやっぱり教育上とか、あるいはかなり中学生になってくると食べる子と食べない子の差が大きく開いてきますので、だったら適正量を皆で融通しながらやる、つぎ分けてやる給食の方式の方がいいんじゃないかというようなこととかがありまして、じゃあどの方式をとるかによって工場の仕様そのものが変わってくるということもありますので、ちょっとそっちのほうの議論を1つ、やってみましょうか。</p> <p>要するに、教科方式で子どもたちがお昼休みつぎ分けて食べる小学校の方式を中学校に持ち込むほうがいいのか、あるいは時間がないからもう弁当でぼんぼんと配って回収すればいいんじゃないかという弁当方式での完全給食がいいのかと。どういうことなんでしょうと。まずじゃあ教育長から。</p>
天野教育長	<p>私は中学校の経験はないんですけども、昔は附属あたりはですね、もうきちっと弁当方式の完全給食が行われてました。だからもう早いんですね。もうざっとつぎ分けられて、もうさっさと行って、もう配るだけですからね。それでもう、ただそこで来て食べてしまう。</p> <p>今の市内の小学校は全部食缶によってつぎ分けてある。おいしいね、また食べたい人にもう1回ついだりとか、もうそこでいろいろコミュニケーション生まれたりとかしながら、ワイワイ言いながらやるような給食です。</p> <p>しかしやっぱり中学校は、今市長さんが言われたように様々な面で校時の調整が必要だとかいうようなことも出てくるぐらいですからね。それは確かにそうかと思えますけども、私がイメージ的に目指すのはやっぱり中学生は中学生なりに、私も基山中学校が私の時はなかったんですけど、今基山中も完全給食でつぎ分け型のやつをやってますので、私も前見に行ったことがありますけど、やっぱり皆が給食当番を決めて、こう分けてやって、皆がもらいに来っていう形でやってますからね。やっぱり非常に手間がかかったり時間はかかるんだけど、そっちの方がより食育としてはいいんじゃないかなというふうな、そういう意識を持っています。</p>
吉原教育委員	<p>はい、今の選択弁当制ですね、が約10年位になるということで、もうある程度お弁当制で定着してきているのかなということで、個人としては時間的な猶予とかも考えて、お弁当でもう出されて、全て終わらせるじゃないけど、そっちの方がちょっといいのかなと思っています。ただその食缶で配ったりすると、別に何か食の時間を何か20分程度設けないかんちゅうのが、何か学校側と1回、前役員しよった時に、給食にした場合の。</p>

天野教育長	つぎ分けです。
吉原教育委員	何か別にその教育の時間じゃないけど、何かそういう時間を設けないかんから、そういう時間までちょっととられてしまうということで聞いたような気もしたんですが。結論的にはお弁当の方がいいかなと思っております。
副田教育委員	<p>はい。昔からその「手間暇かける」っていうような言葉もありますけれども、私の中ではやはりその合理化ばかりを進めることがとても、その時間の短縮とかそれがいい利点ももちろんあると思うんですけれども、私の中ではやはりそのつぎ分けてっていうのがとてもいいかなっていうふうに思います。</p> <p>実は選択式のお弁当ということで、今読み直してる本が、「窓ぎわのトットちゃん」という本を読み直しているんですね。このところで随分昔のことではありますけれども、トットちゃんが行った学校で校長先生が、皆その貧しい時、貧しい時代ですよ。その時に豪華なお弁当を持って来なさいって言ったのではなくて、お母さんに分かりやすく、海のものゝ山のものゝを持ってらっしゃいって言ったっていう、このページがあるんです。その海のものゝというのは竹輪でもいいよ、山のものゝというのは海で採れない梅干しでもいいんだよっていうそのところで、校長先生が「さあ皆、海のものゝ山のものゝ、1つずつちゃんと入ってるかな」って言いながらお弁当を見て、海のものゝが入ってない子にははんぺんの煮たのを1個ポンとお鍋から置くとか、何かそういうふうな場面があつて。それでトットちゃんが、とても貧しい時代だったけれども豊かだったって。皆でわいわいがやがや言いながら。トットちゃんはその時にでんぶをかけた御飯を持って行って、これは、桜でんぶっていうのは海のものゝなんだよって校長先生が言ってくれて、私はそれで海のものゝだったっていう。何かとても質素なんです。1つずつしか入ってないんですが、それがとても温かい感じがしていいなと思って。</p> <p>とても抽象的な言い方かもしれませんが、これと重ねた時に、とてもそのお弁当ってもちろん合理的ではあるかと思うんですけど、残せると思うんですね。蓋をこうポンとしてもう食べなければそのまま廃棄になってしまうという。そのところがつぎ分けですと、おかわりしたい人って、手挙げた子にまたこうついであげることができて、何かそのところで温かいなっていう感じがして、私はつぎ分けのほうがいいかなというふうに思っております。以上です。</p>
戸田教育委員	僕もどちらがいいっていうのはあまり考えてはなかったんですけども、先程副田委員が言われたとおり、お弁当だとやはり量の調

	<p>整が難しい。今食品ロスがいろんなところで問題になってますけども、そういう意味では、可能であれば食缶方式のほうがいいのかなっていうふうに思います。教育長が今、補食でおにぎり持ってきてもいいよっていう話は、余分に食べたい子どもの対応としてそういうことを言っているのに対して、食べられない子、少食の子に対しては多分残すしか選択がないのだったら、今現状どうなってるのかなと思うんですけども。どの程度可能かどうか分からないんですけども、その点に限定して言えば、食缶方式でできるのであればそちらの方が望ましいのかなっていうふうに思います。以上です。</p>
古澤教育委員	<p>感想としては、皆さんおっしゃるように、私は食缶方式の方が。残さ、どれだけ減らすかっていうのも行政としては観点の1つでしょうけど、つぎ分けてもらう時に、自分はこれはやっぱり好きなもの嫌いなもの、最初から自分はこれは少なめについでという様に話をすれば残さは減る。で、好きな人はそれをおかわりして余計に食べたりっていうことで、そこにコミュニケーションが生まれてくるのかなという様に思ってます。</p> <p>食育っていうのは先生がどうのこうのと言って効能を言うばかりじゃなくて、子どもたち同士でも、いろんな部分で広い意味の食育はできるんじゃないかなという様に思ってます。ですから、ひょっとしたらこれは期待し過ぎかもしれないけど、いじめが減少したりとかそういった部分にまでなればなという様に飛躍して思っているところです。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。今、小学校給食とか中学校給食の食物残さの統計ってあるんですか。</p>
築地学校教育課 主査	<p>失礼します。大まかですけども、去年が残量がですね、残量率が15%ありました。とても多かったですね。中学校です。小学校に関しては3%です、はい。</p> <p>ということを知りましたので、こちらもちょっとかなり厳しい状態ということが分かりましたので、校長会、あと各中学校に出向きまして、今1年生が小学校から上がったばかりですので食べているんですね、実際。でも先輩たちを見ると、結局蓋をしたら分からない、先生からも言われないうことが分かりましたので、今声掛けをちょっと今週してきました。ということで、全部残さず食べてくださいねっていうことで1年生を全部回ってるんですけど、やっぱり今から多くなる時期かなってところで去年校長会にお話をしまして、今年最初の方ですけど、昨年末は13%までちょっと下がりました。それでも13%はあるんですね。なので、校長会で10%を目標にお願いしますということ。</p>

	<p>欠席の方の分はどうしてもやっぱりですね、はい。昨日中学校に言ったんだけどやっぱり食べてない。その部分は良かったら申し込んだ方でいいので食べてくださいって言うんですけど、やっぱりそこは食べさせれない。お金の問題があるからって先生が言われました。だから中学校によってもちよっとまちまちなんですね。1人位の1食分であればそんなに残はないと思うんですけど、やっぱり2人3人休むと、その分どうしてもやっぱり倍、倍、倍で増えるからですね。</p> <p>ちよっとあのその部分と、やっぱりもう一人一人がなるべく食べる。で、もしどうしても食べれない。まあこれだけは外すっていうところであれば、その食べる前にちよっと渡してもらおうとかですね、はい。っていうのをちよっとお願いはしたい。してはいるんですけどもなかなか現場ではちよっと難しい。</p> <p>やっぱ先生たちも、選択制なので食育で食べなさいってなかなか言えないっていうことの現場の声も聞きました。だから食缶式だと積み重ねるので、食べてないよねって、食べなさいって形では言えると。だから完全にして食缶にしてほしいというのが現場の先生のお話でした。以上です。</p>
古澤教育委員	<p>休みの子どもさんの部分のそれも残さの中に入れてあるんですよ、今の話からすると。それを抜いたところでの割合はどれ位かというの、もしも可能であれば。</p> <p>私はその欠席した子どもさんのは残さには、結果としては残さかもしれないけど、意志で残したんじゃないかって、だからそれは別に考えてもいいんじゃないかなという様に思いますけどね。あまりに、15から13に減ったといっても、ちよっと普通考えると高いと思うので、そういう努力とそういう分けて考えることも必要じゃないかなという様に思いますけどね。</p> <p>で例えば、当日の朝体調が悪くなって休みますという部分についてはあれですけど、何日も病気で休む、そういった部分については給食はどうのこうのとかいうことは連絡・・・。</p>
築地学校教育課 主査	<p>止めている子もいらっしゃいます。はい、お金がちよっと発生するからですね。</p>
古澤教育委員	<p>だからそこら辺をちゃんと徹底すると、その数値ももうちよっと良くなるかなという様に思いました。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。多分給食の教育的観点をどこまで求めるのかというのもあるんだろうと思うんですね。</p> <p>ある意味、さっきおいしくなり過ぎてんじゃないかという話をしたのは、いや私の親戚の者でアメリカ人と結婚しているのがいまし</p>

て、バリバリのエリートなんですけど、彼らはハンバーガーと、例えばスパゲティをですね、うちの嫁に行った方の親が何時間もかけて何とかソースを作ってやるよりも、キャンベルの缶スープをね、こうやってかけるとこっちの方がおいしいっていう人なんです。やっぱアメリカの馬力ってどっから来るのかって、そういうものを食べてバリバリやると。食事は栄養の補給さえできればいいと割り切ってやってるわけで。

だから、数百年の歴史しかないアメリカとかカナダとかあっちの方の人とは、食の話題って一切弾まないんですよ。中国とかですね、ヨーロッパの人とは食の話題ってものすごい弾む。やっぱり数千年の歴史が食文化の中には必要なので。

今の元気を見ていると、アメリカあたりのね、そういうハンバーガーをかじりながらバリバリ仕事をこなしていく、そういうパワーもいるのかなという感じはしてるんですけど。だからデザートにチョコレートでも出せばもう大喜びと、それでいいという人なので、ああそういうことなんだなと思ってますけど。

だからそこは日本人としての感性とかね、せっかく日本語取り組んでますから、日本の伝統食を食べさせないかという話にもなってくるんだと思いますけれども。多分日本の伝統食、我が家では、雑談ですけど、その、「会話が弾む日本食、会話が弾まない洋食」なんです。洋食って作るのには時間かかるんですけど、あっという間に食べてしまうんで会話は弾まない。和食になるとですね、箸が進まないんで会話が弾むんですよ。大体そういう感じを持ってまして、伝統食になると多分給食時間も会話が弾むんだと思います。だからまずは是非伝統食の給食をやってみるっていう手は。皆残さはどんどん増えると思いますけど。

あのですね、今我が国で問題となっている食物の廃棄の問題、630万トンですかね、あるんですね。でこれ、日本がODAとかでやってる食料支援で海外に持ってってる食料の倍量余ってるんですよ。その4割が流通段階で廃棄されてるんですね。要するに店頭で並ぶ前、並んだ後に廃棄されてるんですよ。要するに家庭まで行かない間に廃棄されているんですね。そこはやっぱり皆さんが食べ物を判別できる能力がなくなった。消費期があつたらそこばかり気にしてしまって自分では食べ物が判別できなくなったとか、諸々の要因があつて流通段階でほぼ4割廃棄されているという状況がありますので、そこはそこでまた別の問題があるなと思っておりましょけれども。

多分その食器の部分をどういう視点で見ると、その給食

	<p>のあり様まで変わってくるんだろうなという思いがございまして、我が鳥栖市の学校給食という立ち位置はこういう立ち位置でやるんだ、だからこういう方式でありこういう中身であり、こういうことなんだ。そこら辺がないと、さっきの戸田先生からあった、何で弁当から変えるのとか、あるいは弁当でいくのとかいう説明が多分できないですね。そこら辺何かお考えがございますか？</p>
<p>天野教育長</p>	<p>戸田委員さんが言われたということですが、選択制の弁当給食も非常に評価を受けたというふうに思っています。一定の評価はあったと思いますよ。</p> <p>先日成章中学校にちょっと用事があって、行って給食を見てきましたら、旧佐賀市は皆この選択制弁当をやっているんですね。東前教育長さんと一緒になったので話をしたら、どうしますかって言ったら、いや変えませんかって言いました。なぜ変えないのって聞くと、保護者が希望してありますからって、この弁当をつくるということ。パーセントにするとわずかだとは思いますが、そういうこともありましたし、ま、いろいろ大変だというふうなこともあるだろうというふうに思います。</p> <p>だからそういった意味で、今までずっとやってきました選択制の弁当給食の評価も随分し、そして効果も上がってきたというようなことではある。あるんですけども、やっぱり今後、日米クックとの協議もありますし、そこの毎年更新をやっている部分を、今度はきちっとある程度方向性を見せる必要も、うちとしての方向性も出す必要があるとは思いますが、そういう意味で、選択制から完全というところで1つの方向性をですね、鳥栖市の教育委員会でもある程度方向性を出さないと、うちとしても中期の財政あたりもきちっと起こすこともできませんし、いろんな面でもうやっぱり、先の方向性を見ていく必要があるだろうというようなことで。</p> <p>さっき言いました食缶方式でしたらそんなに場所もとらなくていいだろうと思いますし、そういうのも含めてですね、いろんな面で今度はたくさんの課題検討、アレルギーの問題、それから給食費の問題。それからそうですね、地産地消の問題とかいろんな問題も出てきますけど、そういうのも含めてからずっと検討していく中で、ある程度方向性を決めていく時に来た。先程とまだ同じようなこと言ってますけども、もう少し見直すべき時が来たのかなというふうなことをとらえていいんじゃないかなというふうに思ってますけど。ちょっとまとまらない話になりました。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>はい、ちょっと言いにくい話をこれから申し上げたいと思います。まず1つ、先程申し上げたように今の工場のキャパが1,300で</p>

やっているとということで1点。それからあともう1つ、今使っている工場の機材、これの更新期が迫っているということがございます。その更新期が迫っている時に今度は、今度入れる装置機械類を何食賄えるものにするのかということを検討しなければいけない段階が1つございます。これを、じゃあ今の弁当給食方式を継続した時に、今の工場の大きさで何食までカバーできんのということで、拡張が必要であれば、今実は土地はお借りしております。JAさんの土地をお借りして工場を運営させていただいてます。じゃあ拡張が必要なのかと。でそうすると、今度はJAさんに御相談しなきゃいけない話が出てきます。

ということで、今後の給食の方向性をどうするかによって工場の規模が決まり、導入すべき装置が決まるということが、そこを検討する段階に今ちょっとあるということが1つあります。

あるいはその、あその国道3号の横にありますので、今度国道3号の鳥栖拡幅事業をやるのね。そうすると分離帯ができますので、3号からの出入りが片っ方からしかできないというようなことがあったりします。今は裏から入っているんで関係ないよって話もありますけど、そういったことがあると。

あともう1つは、鳥栖が鳥栖駅周辺とか市庁舎の建て替えとかごみ焼却場の建設とか新産業集積エリアとか、この10年ぐらいで500~600億の事業を一遍にやりますので鼻血も出ないということがあります。その中で、さっき敢えて国が教育の無償化を言う、どこまでって申し上げたのは、どこまでじゃあお金の算段ができるんでしょうと。そんな中でどう、もし給食センターを完全給食用に建て替えるにしてもですよ、じゃどこでそれを入れ込んでいくのと。きっちきちなんですよ。ということで、かなりタイトなお財布事情がございまして、その意味でちょっと大体の方向性をね、腹に据えて、じゃあどこでこれを潜り込ませていくのかということがやっぱり考えなきゃいけない時期に来ているということなんです。本当にだからかなり財政的に厳しい中でどうこれを入れ込んでいくのという。

多分、その前段で鳥栖の学校給食、小・中学校の給食の立ち位置はこういう立ち位置でこういうふうな考え方で進めていきますっていうのをずっとしながら、じゃあこれこうですよっていうことをしていかなければいけないのがちょっと背景にございましてですね。ここはまだ関係するところが非常に、受託をしてくださってる日米クックさんとか底地を持ってるJAさんとか諸々の考えがこう絡まっていますんで、これはこっちで整理しなきゃいけないこと

	<p>なんで、まあそこはお気にしていただくことはないだろう。まあ、ちょっとそこら辺の諸々の背景がございますということで。</p> <p>だからまあ、完全給食になると2千数百名位を賄えるセンターが要りますよねということになっていきます。その時にどういう方式を採るかというので、随分工場の広さとか運搬するトラックの大きさとか台数とか、そういったものもちょっとかなり影響してきますのでということなんですね、はい。</p>
天野教育長	<p>教育委員会で、今日もまあこの教育委員さんに集まって、平成27年度も数回、完全給食に向けての話し合いをして、ちょっと現場も見ようということで見に行ったりとかもしたような経緯もあったんですけども、いろいろな協議を行ってきたんですけども、教育委員会として基本方針は策定できてないんですよ。例えば、議会の上ではその完全給食に向けてっていうようなことも言い合っているものの、教育委員会の中で基本方針として何年度まで何、例えば中学給食を実施しますとか、学校給食を活用した食育の充実を図りますとかいうようなきちとした方針というのはなかったんじゃないかなっていうふうに思っ私は認識をしてるんですけど。</p> <p>そういった中で、やっぱり今市長さんが言われるように、様々なうちも課題があります。財政的な問題もあるし、いかにそれを入れ込んでいくかというふうなことで、それは今後大きな、うちの総務課、学校教育課等も含めてですね、協議していくことなんですけども、やはりもうそろそろ教育委員会としても、基本方針としてやるんですよというところでは、それはやっぱりこう出しているのかなと思っておりますけど、いかがなものでしょう。</p>
橋本市長	<p>原さん、その平成15年ぐらいの議論の中で鳥栖市の給食、小学校中学校の給食のあり方を、もう基本的な考え方、そういった議論はなされなかったんですかね。</p>
原教育総務課 総務係長	<p>はい、小学校に関しては現状の完全給食のままを、完全給食を堅持していくと。中学校についてはアンケート、当時アンケート調査等を行いまして、一番ベストなのは選択制弁当方式の給食だということで、それでいくということだけ決めておりまして、その他のあり方あたりまでですね、整理をしたということではございませんでした。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>その意味ではやっぱり今ある時代背景とか、あるいはこれから考えられる子どもたちが置かれている家庭の状況。あるいは、私たちがその給食というのは教育の一環でいくのか、あるいはもう栄養補給に徹するのとか、どこら辺の立ち位置でそれをやっていくのか</p>

	<p>によって、やっぱりやり方が違ってくるんだろうなというふうに思うんですけれども。</p> <p>昔教育長された方、「なんで教育委員会が飯の世話までせにゃいかんとか」という話がありましたけど。飯は自分で食えば良かろうもんちゅう、そりゃそうですねということなんですが。だからまあ、ある意味もう鳥栖はシエスタを導入してお昼は御飯食べに帰るということでも面白いかなという気がします。これは非現実的な話でしょうけれども。</p> <p>やっぱり給食においても教育の視点を持ち込んで、例えば栄養バランスのことを教えるとかですよ。さっきのね、海のもの、山のものってございましたけど、そこもじゃあその「日本語」をせっかくつくっておりますので、「日本語」の中で日本の人たちはこんなもの食べてきたと。ね、弥生時代の給食とかですよ、あっても面白いかもしれないし、1個はあれですよ。いつも申し上げてますけど、非常食給食を年に1回はやって、数千食分のストックを持って置いて年に1回か2回かで更新して非常食を担保していくと、子どもたちにも非常食を食べさせる訓練もしておくという、ここは是非どっかでやりたいなという気がしております。</p> <p>ということで、もう多分ここまで来ると堂々巡りなんですけど、一応教育長の思いとしては完全給食化に向けて進めたいということと食缶方式でいくべきではないかという御指摘がございましたけども、じゃあそこに対してもう1回皆さんからそれぞれ御意見をいただいて、今日のところはこんなところまで。多分お金は大変厳しいということだけ。で、一応それはこっちに置いて、我々としての給食というのはこういう方向性でやっていくんだと言って、その中でじゃあどこに、どこの年度からどういうことが落とし込めるのかってのを今度事務方で整理をいたしますので、そういうことでもうひと回り御意見ちょうだいして終わればと思います。どうぞ。</p>
吉原教育委員	<p>はい、先程弁当式が良いということでお話ししました。何でかちゅうと、まあ自分が中学校時代に実際小学校のような給食食缶で出されてまともに給食配膳したかなというのもありますし。</p> <p>要らんお世話かもしれんですけど、今の中学生がまともに配膳してくれれば、もう一番その食缶式の方が。</p>
橋本市長	だから配膳の仕方も教育だっていう。
吉原教育委員	うーん、そげんそこまで踏み込んで学校がしてくれれば、それはもう私は理想と思うんですが。それを期待すれば、食缶方式の方がもう当然良いと思いますが、当初ちょっと期待できないかなと思っ

	<p>てお弁当方式で話しておりました。</p> <p>言うようですが、学校の方がそこまでして指導していただければですね、現場の方がですね、もう完全に食缶方式の方が良いと思います。はい、一応です。</p>
副田教育委員	<p>はい、私も先程申し上げましたが、食缶方式の方が良いと思います。多感な年頃だとは思うんですね、特に女の子です。</p> <p>またちょっと余談になってしまうかもしれませんが、私の知り合いが話していたのが、吐きだこがある子がいる、右の手に。ですから、そこでしっかり食べたようになって、後でトイレに入って、女の子で太るのが嫌だから食べた物をすぐ指を突っ込んで吐くと。そういうふうですから拒食症、過食と拒食を繰り返すわけですけど、結構とても真面目で完璧主義の子が多いというふうに聞きました。その子たちは何故、アナウンサーの子なんですけれども、その子が私もそうだったって言ったんです。それでその、私が自分がそうだったから、手を見たら分かる。利き手の指を突っ込んで歯が当たる場所に吐きだこができていうんです。</p> <p>だから、お弁当じゃなくてそういうふうな器に入れてもらってっていうその時に学校の先生方は、特に多感な年頃の中学高校位から始まるようですので、その吐きだこがあるかどうかというのをこう見逃さずに、そのところでまた心のケアにつながっていくような、いろんな問題が重なってはくると思うんですけど、そんな年頃の食の問題かなというふうに思います。はい、すいません、うまく表現できなくて。</p>
戸田教育委員	<p>はい、弁当方式か食缶方式かだけじゃなくていいですよ。もう1個前の話でもいいですよ。</p> <p>選択弁当制か完全給食かの話で、小さな違いかもしれないんですけども完全給食でないとなし得ないことが、この今日の短い議論の中でも幾つか出てきて、貧困家庭の問題というのは、皆が強制的にこのお弁当を食べなきゃいけないんですよっていう状態があるからこそ食べさせてあげることができたり、先程の食品ロスの話も皆が食べる権利があるから、権利というかお金払ってるからこそ、休んだ子の分を皆でシェアすることができる。</p> <p>だから、パッと聞いてパッと思いつかないようなことも含めて、完全給食のメリットっていうのはあるんだろうなと。その辺はちゃんと整理をすれば理解、そのう、中学生にどこまで理解してもらえるかどうか分からないですけども、理解はしてもらえるのかなと思いますんで、是非その完全給食化に向けて論点整理をする時にそういったことを、我々だけじゃなくて説明する際にも、その作業は有</p>

	<p>用な作業なのかなというふうに改めて思いました。すいません、以上です。</p>
古澤教育委員	<p>子どもたちが1日何食きちっと食事をとれてるかっていうのが非常に気になるところです。で、食べてても孤食と言われるように、特に夜1人で、準備してもらってるだけでもいいのかもしれない、いい方なのかもしれませんが、そういう心配も一方ではあるわけですね。</p> <p>そういうことからすると、やはり中学校では完全給食で実施、きちっとした形で皆と、せめて1回位は、1日1回位はわいわい言いながら食べさせるっていうのも大事じゃないかなという様に思います。</p> <p>それと、教育委員会としてのウィークポイントというか、弱点が、どうしても教育長の思いはいっぱいあっても、こうしますって言えないのは財政の基盤がないから。市とやりとりをして付けてもらってなんぼみたいな部分があるので、これは仕方がない部分があるのかなと思いますけど、そういう中でも例えば言うとしたら、いついつまでにこういう完全実施を目指しますぐらいは方針としては、教育委員会の全体としての方針は持っているのかなという様に思いますので。</p> <p>もう本当に目の前にいろんな問題があるというのを今日の部分で再度認識しましたので、それを踏まえた上で幾らかでも前進するようにしていきたいなという様に思います。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。それぞれ御意見等賜りましてありがとうございます。</p> <p>本当は食のことは家庭が担うべきものだろうと思っておりまして。余りにもいろんな課題をですね、学校に投げ過ぎてはいないかといういつも反省をしながら。</p> <p>我々も非常に反省をしなければいけないのは、学校に投げるのが一番楽なんですね。はい、学校にやって。何千人が聞いてくれるから。保護者も聞いてくれると何万人じゃんっていう発想でやりますけれども、それで多分学校アップアップしてるんですね。だから多分、学校の先生に配膳のところまでちゃんとチェックしてねって、先生がうんと言うかどうかですよ。</p> <p>ということもあるし、我々はいつも学校に行って嫌々挨拶をさせられてますが、いつも申し上げるのはやっぱり、自立のための支援をどこまでするんでしょうねと。将来必ず絶対1人で生きていかなきゃいけないんで、その時に必要なことを身に付けさせるのが小中学校ですよ。その時に基本は自立ですと。そしてもう1つ家庭</p>

	<p>教育ですと。これが基本なんですよと。これは絶対揺るがせにはできないことだと思います。その中で足りない部分を多分サポートするのが学校の教育だろうと思うし、知識とか知育みたいなところが中心になっていくと思うんですけど。その中で、あとその時代背景としてさっきの二極化の問題があって、時代背景はこういう認識をしておりますので、ここまでやりますというものになってくるんだろうなと思っております。だから、あんまり我々がやり過ぎると自立を妨げてしまうところもあるので、そこはやっぱり常に反芻をしながらやっていく必要があるんだろうというふうに思っております。</p> <p>方向性としては、大変財政は先程申し上げたように非常に厳しいところでもありますけれども、じゃどこで、どのタイミングで入れ込めていくのかということ、その上の事務方の方でちょっとあれこれやってみて、基本的に食缶方式の全面給食を小中学校やると。多分今の小学校の給食センターにアドオンしていくというのはちょっと難しいと思いますので、別のセンターを、どういう形で実現しながらやっていくのかということで検討していくことになるのかというふうに思いますので、一応この方向性を御了承いただければ。</p> <p>今日のこれでいいんですか。もうちょっと、もうちょっと何年頃までに。私はそこまで責任を負えませんので。</p>
天野教育長	事務方とも話し合いながらですね。
橋本市長	<p>ええ。かなりだからものすごいタイトな財政の縛りがありますので、その中でどこでどう盛り込ませるのか。あと国の学校の無償化の部分がどうなるのかというのがちょっと気になるところであります。</p> <p>あともう1つ皆さんに是非把握をしていただきたいのが、実は今年度予算で一番特徴的なのが民生費、いわゆる社会保障の関係が100億円を超えました。出費の中の43%です。これが20年前は30数%でした。40年前は17%でした。それほどやっぱり高齢化の圧力というのはかかってきています。恐らくは鳥栖の財政の50%、ほぼ数年後に迎えると思います。その中で一番縮んだのが土木費という、道路とか橋とか建物公園をいじるものなんです、この辺が最盛期の大体3分の1になりました。</p> <p>いわゆる団塊の世代の皆さんが2年前、平成27年に全員65歳になられて、10年後、2025年に全員75歳以上になられると。ここで単純に今のレベルでいくと、前期高齢者、65～74歳までの方の1人当たり医療費が50万です。今現在75歳で後期高齢者の方の医療費</p>

が約 100 万です。ですから倍増するんですね。だから、団塊の世代の大変分厚いその皆さんが医療費倍増されると、健康保険は完全にパンクします。

そこに向けて、今ちょっとがん検診を無料化してどうこうっていう手を打っていつてますけど、2025 年まであと 10 年、25 年ちょっとまでかな。あと 10 年位はこの高齢化の圧力がものすごいかかってきますのでなかなかですね。さっきの鳥栖の大きな事業費を考えると、なかなか回せんなど。だからその医療費を賄っていただけでいっぱいいっぱいかなという気がしてまして。ただ、だから鳥栖はがん検診を無料化して。

一番、1 人ですね、人間を見ると、その人が一生涯に使う医療費の 9 割は死ぬ前の 5 年間で使います。高額医療を受けていらっしゃる方は上位 2 割の方が総医療費の 8 割を使っています。ですから重篤な状況にならないようにさえすれば、かなり浮くんですね。だからもう我々の年になればいろいろ出てくるのはもうしょうがないので、何とかつき合っていくしかない。で、ただ入院まで至らない、あるいは透析にまで至らないように寸止めしてあげるっていうか、そこで何とか踏みとどまれるようなお手伝いをしていくということだろうと。

鳥栖は平成 24 年～25 年頃、後期高齢者ですね、1 人当たり 122 万円超えてまして、全国 1 位だったんです。これじゃいかんということで、その検診の無料化とか諸々して、重篤な状況にならないお手伝いを保健師が頑張ってくれて、1 人当たり後期高齢者の医療費 5 万円ということは、6 千数百人いらっしゃいますので、3 億円削減できたんです。

ですから重篤な方を、なりそうな方をできるだけ早く拾い出してしっかりフォローアップすることで医療費を抑えつつ、じゃ、その抑えた分をどこに回すのかという努力を多分これから 10 年ぐらいは続けなきゃいけない。その中でこういう費用を生み出していくということになるんだろうというふうに思ってます。そこら辺がまだ変動要素としては一番大きいだろうということは想定をします。そこも頭に置き、これを言い始めると何もできないんですけど、頭に置いていただく必要があるのかなと思っております。

是非皆さんも健康にだけはご留意いただきまして、重篤な状況にならないように。やっぱり透析されている方が一番、まあまあ、なさっている方がいると大変申し訳ないですけど、やっぱり 1 人やって 5～6 百万、年間かかるんですよ。で、個人負担が 50 万ぐらいしかないんで、残り全部公費負担してますので、透析の方だけで 3 億

	<p>ぐらい使ってるんですね。だからその透析に、要するに糖尿病とかそこら辺の透析が必要になりそうな方をできるだけとどめることで随分落ちますし、いわゆるその健康寿命を長くするお手伝いをどうするかということが。</p> <p>あと市民協働推進課とかには、病院に行くよりも楽しい公民館をつくろうよって。あっちに行くよりかこっちに行く方が楽しいよということもあるんだろうな。というのはその、楽しい、笑っていただくとか動いていただくことで随分健康はカバーできますのでということで。そういった努力をしながらどう入れ込んでいくのかということで。</p> <p>それはまあ、お年を召した皆さんにも、もう俺たちは程ほどでいいから子どもに回してやってくれということをお願いいただけるような働きかけも要るんだろうというふうに思うんですけどね。俺たちはもう精いっぱいもらったけん、もうよかよって。だめ、私たちがやったからです。ね、戦争をくぐり抜けたんだろうと言われると、ああそうですって言うしかないんですけど。</p>
古澤教育委員	久留米は言われます。
橋本市長	ああ、そうですか。
古澤教育委員	はい。
橋本市長	それ、ちょっと頑張ってください。
古澤教育委員	子どもたちに手当てしてほしいという思いをどの地域の人も持っている様に聞きました。かなり保守的な地域の割には。
橋本市長	<p>その意味でやっぱり、教育県佐賀をもう1回取り戻して、教育にはもう何も惜しまず金を注ぎ込むという体制ができれば一番いいんですけどね。ありがとうございます。</p> <p>とにかく子どもの頃の栄養摂取、これは大人になって病気になりやすさ。この前ちょっと読んだ本で、煙草吸われる方いらっしゃいます？あ、煙草を吸う人はですね。</p> <p>今度京都大学と一緒に、子どもたちのマイナス1歳から14歳まで、中学校卒業までの全員の健康データを集めて、その子が将来何に気を付けなきゃいけないかを卒業の時に全員渡そうと。あともう1つ、その地域の特性をそこから拾って、学校給食で何を気を付けなきゃいけないとか、そういったことまでやろうかというのを京都大学の方と一緒にやることにしています。</p> <p>その方の去年発表された論文で、煙草を吸う家庭で育った子どもはその環境に適応するために自分の免疫力を半分に下げるんだそうです。要するに、免疫力を保っておくとそこにいられなくなって</p>

しまうので、免疫力を下げた環境対応して、それは一生治らんそうです。ということで、あれです。大きくなって病気になりやすいらしいですよ。ということで、ちょっと遅いかもしれませんが。そう去年の発表論文で書かれています。

そんなデータもいただけることになっておりまして、せめてもの中学校卒業の健康面でのプレゼントを各個人にやって、地域としては、どういうその免疫的な疫学的なデータを集めて健康長寿を全うできるかという町にしていこうかということで、確か来月位ですかね。来月位契約をして、そこからその鳥栖にいる今マイナス1歳からの子どもたちのデータを全部コンピューター入れてやっていくことになっております。そういうことでよろしいですか。

ということで、ちょっと後半は、なかなかですね。難しい話ばかりでしたけど、是非こういう方向性で進めていくということで御理解を賜ればと思っております。ありがとうございました。